

# 第66期 中間事業報告書

平成17年4月1日から平成17年9月30日まで

# C O N T E N T S

---

株主のみなさまへ .....	2
セグメント別の概況 .....	3
対処すべき課題と施策 .....	5
財務ハイライト .....	7
連結財務諸表 .....	9
個別財務諸表 .....	10
企業集団および当社の状況 .....	11
株式の状況および会社の概要 .....	13



株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第66期上半期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の中間事業報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、企業業績の拡大に伴う好調な設備投資と底堅い個人消費に支えられて、景気は回復基調にあり、昨年半ばから続いていた「踊り場」を抜け出しつつあります。また、地方の経済状況も地域ごとにばらつきはあるものの、徐々に好転のきざしを見せております。

しかし一方では、原油価格の高騰が企業業績に与える影響も無視できない状況にあり、米国・中国等の海外景気も不透明感が強く、先行きは楽観できない状況にあると思われま

す。当社グループ関連市場につきましても、お客さまの費用対効果を考慮した案件の選別が厳しく、また、ハード価格の低下や他社との競争激化等の傾向は、今後ますます強くなることが予想されます。

このような不透明な経済環境において、「受注拡大ならびに利益の追求」を基本方針とし、お客さまに満足していただけるソリューションを提供できるよう、積極的に事業活動を展開してまいりました。

その結果、当上半期における当社グループの業績は、売上高548億5,846万円（前中間連結会計期間比6.9%増）、経常利益6億7,144万円（同31.5%減）、中間純利益は2億7,248万円（同6.9%減）となりました。

なお、中間配当金につきましては1株につき3円とさせていただきます。

株主のみなさまには、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月

代表取締役社長 郁榮 康吾

### ●情報ネットワークシステム

ネットワークシステムでは、IPビジネスの多様化、競争の進展等、IP化は着実に浸透し、今後もその傾向が一層強まることが予想されます。テレフォニー分野につきましても、当社が推進してまいりましたIPビジネス戦略により大型コールセンターの構築や、企業統合によるIP化のためのコンサルティング活動が順調に推移し、売上は予想を上回る結果となりました。

コンピュータシステムでは、お客さまの情報化投資案件は増加しており、回復基調にあるものの、同時に投資効果もより厳しく問われるようになってまいりました。お客さまの業務効率化を実現する仕組みに加え、企業戦略をサポートするシステムへと更に高度化してきております。長年培ったシステム導入からメンテナンスまでのフルサポート力を活かし、お客さまに最適なソリューションをご提供してまいりましたが、ハードウェア価格の低下により売上は前年並みとなりました。

ソフトウェアサービスでは、業種・業務ノウハウを活かしたソリューションビジネスを展開し、開発の効率化とプロジェクトマネジメントの強化による高品質なシステムの提供に取り組みました。また、個人情報保護法の施行によるセキュリティサービスを加えた総合的なサポートビジネスを推進しましたが、売上は前年並みとなりました。

この結果、情報ネットワークシステムにおける売上高は370億4,964万円（前中間連結会計期間比2.1%増）を計上することができました。

## ● 電子デバイス

---

半導体につきましては、携帯端末向けLSIの大口案件が好調に推移し大幅な増収要因となりました。また、開発部門を持つ強みを発揮し、お客さまとの連携を密にすることでカスタム製品の開発に取り組み、ASIC・マイコン・メモリ等も堅調に推移いたしました。

一般電子部品は、FA機器・コネクタ・リレーの競争激化による価格下落はありましたが、旺盛な投資意欲にも支えられ堅調に推移いたしました。

電子機器につきましては、国内メーカーによる企業向け3.5インチHDDが大きく伸長いたしました。また、エンドユーザ向けのPC・サーバおよび音響機器も旺盛な需要の中、堅調に推移いたしました。

サブライ用品その他につきましては、価格競争の激化、大型プリンタ用品の需要減少の影響を受け低調に終わりました。

この結果、電子デバイスにおける売上高は171億8,498万円（前中間連結会計期間比20.0%増）を計上することができました。

## ● その他

---

人材派遣は、前年に引続き順調に推移いたしました。空調等の環境関連事業につきましては、依然厳しい状況が続き売上高は減少となりましたが、工事およびメンテナンスの効率を高め、利益につきましては目標を達成いたしました。カーオーディオ・移動体無線につきましては、車載端末にかかわるシステム商談の増加により販売実績を重ねることができましたが、利益につきましては目標達成には至りませんでした。

この結果、売上高は6億2,383万円（前中間連結会計期間比9.8%減）となりました。

総務省が提示したe-Japan戦略で、整備された通信インフラを利用・進展させた、いつでも、どこでも、誰もが情報通信ネットワークを利用して社会に参加するu-Japan構想は、2010年までにユビキタスネット社会へと発展させていくことを目標としており、今後IP、無線等の技術・サービスの多様化、競争の進展等、情報通信を取り巻く環境は劇的変化を遂げることが予想されます。

こういった状況のもと、当社グループといたしましては、今後対処すべき以下の課題に積極的に取り組んでまいります。

### ■新規顧客獲得と独自ビジネスの展開

IPに特化した組織の新設（IP企画部）により、IPビジネスの拡大を図ってまいります。また、多くのネットワーク構築・運用実績で培ったノウハウを活かしたソリューションを広く社会に提供するとともに、コンサルティングから、構築（設計・開発・施工）、運用サポートまで一貫した新しいビジネスモデルを創出してまいります。

### ■サービスビジネスの拡大

当社グループのネットワークサービス網の更なる拡充により、迅速かつ確かなメンテナンスをはじめ、情報・通信にかかわるあらゆるサポートをご提供してまいります。また、情報システムのQ&Aサービスを行う「ツツキヘルプデスク」、情報ネットワーク機器について24時間365日サポートを行う「ツツキサポートセンター」等を充実させ、お客さまのニーズに対応してまいります。



### ■アライアンスビジネスの推進

ソフトウェアベンダー、情報サービスプロバイダー、ビジネスソリューションプロバイダー等との企業提携を推進し、ネットワークサービスの拡大をはじめ、相互のノウハウを最大限に活用することにより、最適なサービスをご提供してまいります。

### ■プロジェクト管理の徹底

品質管理、コスト管理、納期管理、リスク管理等をより一層強化し、プロジェクト管理体制の最適化を徹底してまいります。

### ■人材の育成

急速な技術革新や情報化の進展していく状況下においては、常に最新の知識、技術を吸収し活用する必要があります。キャリア開発を通じて自立型社員の育成を目指すとともに、スキルアップ研修計画を策定し、産業構造の変化、新事業分野の創出、技術革新に対応できる人材の育成に取り組んでまいります。



### ■コーポレートガバナンス

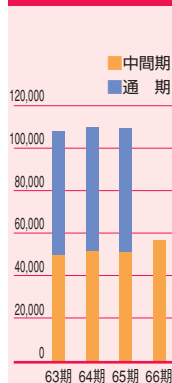
当社グループでは、効率的で透明性のある戦略的な企業経営を可能にする体制と、コンプライアンスを重視した経営システムの構築を最重要施策と位置付けております。

具体的には、取締役会において決議された中長期的および全社的な経営方針・戦略に基づいて、運営方針検討会、事業計画検討会を毎年開催し、戦略的な施策の策定や目標値の設定を行っております。また、常務会を設置し、経営のスピード化・戦略性の向上を図っております。

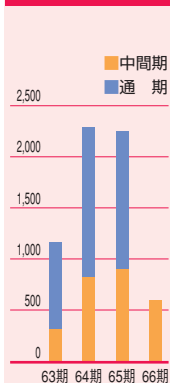
## ■企業集団の営業成績および財産の状況の推移

区 分	第63期 平成15年3月期	第64期 平成16年3月期	第65期 平成17年3月期	第66期 平成18年3月 中間期
売 上 高 (百万円)	108,249	110,697	110,222	54,858
営 業 利 益 (百万円)	1,169	2,296	2,259	605
経 常 利 益 (百万円)	869	2,329	2,411	671
中間(当期)純利益 又は純損失(△) (百万円)	△4,673	954	1,248	272
1株当たり中間(当期)純利益 又は純損失(△) (円)	△184.45	37.08	48.66	10.77
総 資 産 (百万円)	68,161	72,178	72,990	69,430
純 資 産 (百万円)	16,975	18,876	19,854	20,815

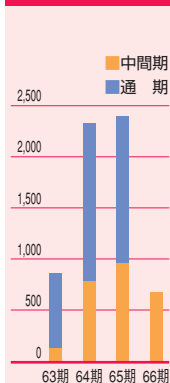
### 売上高の推移



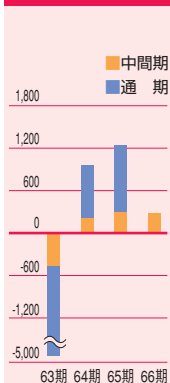
### 営業利益の推移



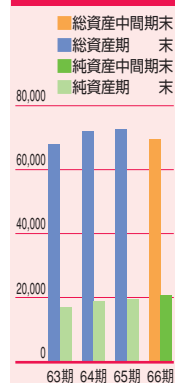
### 経常利益の推移



### 中間(当期)純利益の推移



### 総資産・純資産の推移



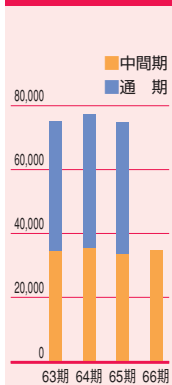
単位：百万円



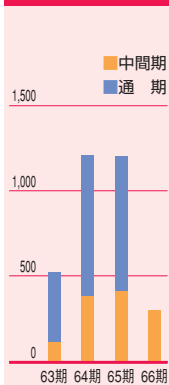
## ■当社の営業成績および財産の状況の推移

区 分	第63期 平成15年3月期	第64期 平成16年3月期	第65期 平成17年3月期	第66期 平成18年3月 中間期
売 上 高 (百万円)	75,098	77,407	74,959	34,957
営 業 利 益 (百万円)	524	1,214	1,207	305
経 常 利 益 (百万円)	355	1,566	1,281	355
中間(当期)純利益 又は純損失(△) (百万円)	△4,446	1,003	748	447
1株当たり中間(当期)純利益 又は純損失(△) (円)	△175.29	39.61	29.56	17.68
総 資 産 (百万円)	42,645	44,768	43,842	39,368
純 資 産 (百万円)	13,203	15,026	15,533	16,352

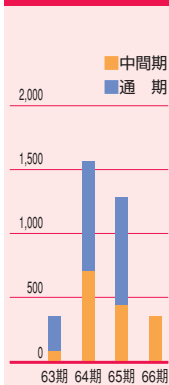
### 売上高の推移



### 営業利益の推移



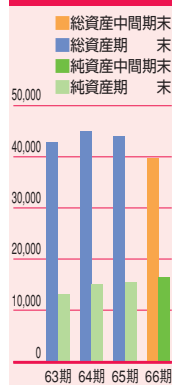
### 経常利益の推移



### 中間(当期)純利益の推移



### 総資産・純資産の推移



単位：百万円

## 中間連結貸借対照表(要旨) (平成17年9月30日現在)

(単位: 百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>52,904</b>	<b>流動負債</b>	<b>35,565</b>
現金及び預金	13,876	支払手形及び買掛金	18,674
受取手形及び売掛金	27,996	短期借入金	9,154
たな卸資産	9,139	1年以内に返済予定の長期借入金	1,649
繰延税金資産	1,091	未払法人税等	427
その他金	975	与引当金	2,006
貸倒引当金	△174	注損引当金	284
		未償受そ	3,368
<b>固定資産</b>	<b>16,525</b>	<b>固定負債</b>	<b>6,319</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>5,137</b>	長期借入金	1,563
土地	3,573	職給付引当金	4,316
その他	1,564	退職調整勘	422
		未償受そ	17
<b>無形固定資産</b>	<b>632</b>	<b>負債合計</b>	<b>41,884</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>10,755</b>	(少数株主持分)	
投資有価証券	7,248	<b>少数株主持分</b>	<b>6,730</b>
長期貸付金	4,896	(資本の部)	
繰延税金資産	1,119	資本	9,812
その他	2,262	資本剰余金	3,476
貸倒引当金	△4,772	利益剰余金	6,204
		その他有価証券評価差額金	1,357
<b>資産合計</b>	<b>69,430</b>	自己株式	△35
		<b>資本合計</b>	<b>20,815</b>
		<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>69,430</b>

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 1,743百万円

## 中間連結損益計算書(要旨)

(平成17年4月1日から  
平成17年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科目	金額
<b>売上高</b>	<b>54,858</b>
売上原価	46,523
<b>売上総利益</b>	<b>8,334</b>
販売費及び一般管理費	7,729
<b>営業利益</b>	<b>605</b>
営業外収益	194
営業外費用	128
<b>経常利益</b>	<b>671</b>
特別利益	76
特別損失	70
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>676</b>
法人税、住民税及び事業税	406
法人税等調整額	△67
少数株主利益	65
<b>中間純利益</b>	<b>272</b>

(注) 1株当たり中間純利益 10円77銭

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(平成17年4月1日から  
平成17年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科目	金額
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,867</b>
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>868</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△156</b>
<b>IV 現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△1,156</b>
<b>V 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>14,981</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>13,825</b>

## 中間連結剰余金計算書(要旨)

(平成17年4月1日から  
平成17年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科目	金額
<b>(資本剰余金の部)</b>	
資本剰余金期首残高	3,476
資本剰余金中間期末残高	3,476
<b>(利益剰余金の部)</b>	
利益剰余金期首残高	5,762
利益剰余金増加高	534
利益剰余金減少高	92
利益剰余金中間期末残高	6,204

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 個別財務諸表

## 中間貸借対照表(要旨) (平成17年9月30日現在)

(単位: 百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>27,788</b>	<b>流動負債</b>	<b>20,119</b>
現金及び預金	7,004	支払手形及び買掛金	9,525
受取手形及び売掛金	12,811	短期借入金	5,080
たな卸資産	6,847	1年以内に返済予定の長期借入金	1,350
繰延税金資産	728	賞与引当金	1,248
その他貸倒引当金	549	受注損失引当金	284
	△152	その他	2,631
<b>固定資産</b>	<b>11,580</b>	<b>固定負債</b>	<b>2,896</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>2,728</b>	長期借入金	650
土地	1,851	退職給付引当金	2,245
その他	877	その他	0
<b>無形固定資産</b>	<b>260</b>	<b>負債合計</b>	<b>23,016</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>8,591</b>	<b>(資本の部)</b>	
投資有価証券	5,347	<b>資本金</b>	<b>9,812</b>
関係会社株式	1,496	<b>資本剰余金</b>	<b>3,476</b>
長期貸付金	4,128	資本準備金	2,453
関係会社長期貸付金	882	その他資本剰余金	1,023
敷金・保証金	806	<b>利益剰余金</b>	<b>1,895</b>
繰延税金資産	184	任意積立金	1,200
その他	693	中間未処分利益	695
貸倒引当金	△4,707	<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>1,203</b>
関係会社投資損失引当金	△240	<b>自己株式</b>	<b>△35</b>
<b>資産合計</b>	<b>39,368</b>	<b>資本合計</b>	<b>16,352</b>
		<b>負債及び資本合計</b>	<b>39,368</b>

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 942百万円

## 中間損益計算書(要旨)

(平成17年4月1日から  
平成17年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科目	金額
<b>売上高</b>	<b>34,957</b>
売上原価	28,954
<b>売上総利益</b>	<b>6,003</b>
販売費及び一般管理費	5,698
<b>営業利益</b>	<b>305</b>
営業外収益	124
営業外費用	74
<b>経常利益</b>	<b>355</b>
特別利益	517
特別損失	41
<b>税引前中間純利益</b>	<b>831</b>
法人税、住民税及び事業税	200
法人税等調整額	184
<b>中間純利益</b>	<b>447</b>
前期繰越利益	248
<b>中間未処分利益</b>	<b>695</b>

(注) 1株当たり中間純利益 17円68銭

\*記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

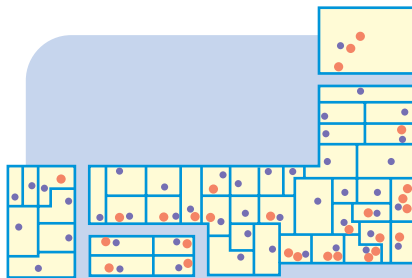
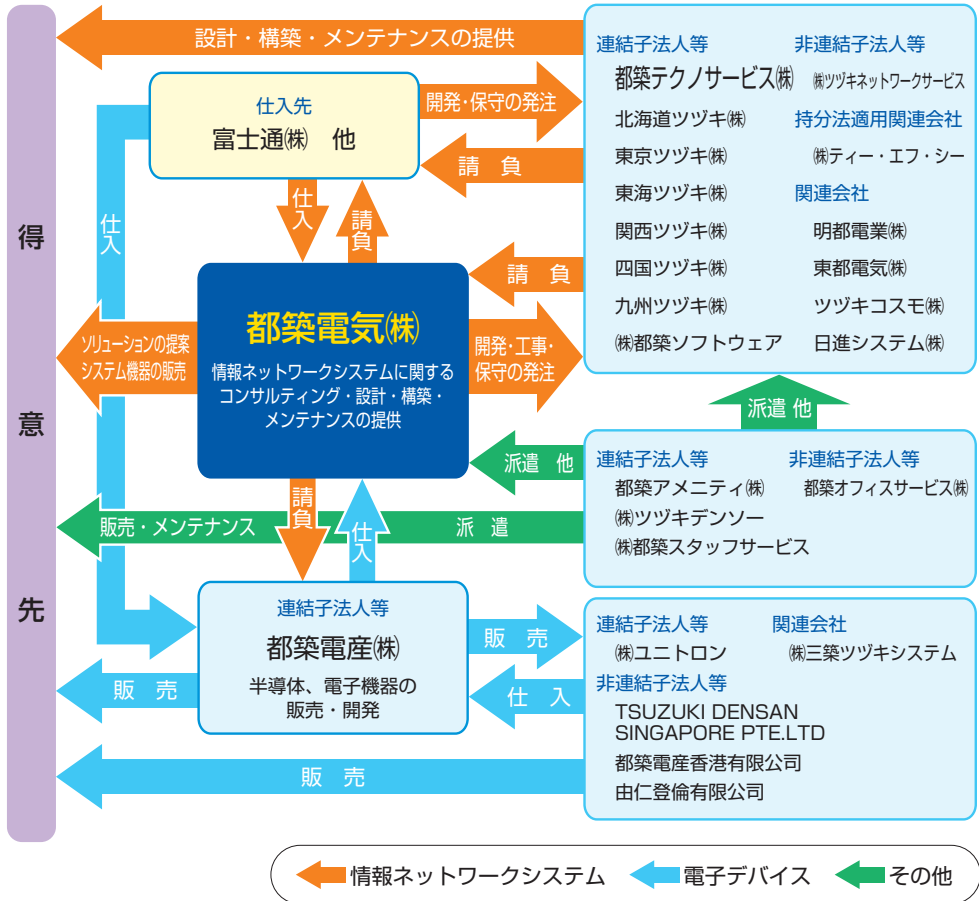
## ■企業集団の主要な事業内容

事業区分	主な取扱い製品およびサービス
情報ネットワークシステム	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇主な取扱い機器                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○IP-Telephony、LAN/WAN、パソコン、汎用コンピュータ、周辺装置</li> </ul> </li> <li>◇各種ソリューション                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットワークソリューション                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>IP-Telephony/IP-PBX/IP-VPN/インターネットVPN設計導入支援ソリューション、ネットワーク診断/構築</li> </ul> </li> <li>○業種/業務ソリューション                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>製造、流通・サービス、医療・福祉、公共・文教、金融分野にかかわる各種業務ソリューション</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◇サポート&amp;サービス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットワーク監視サービス、サポートデスク、ヘルプデスク、セキュリティサービス</li> </ul> </li> </ul>
電子デバイス	半導体、一般電子部品、電子機器、これらにかかわる受託設計開発およびコンピュータサプライ用品の販売他
その他	空調機器の販売・据付、カーオーディオ・無線機の販売、人材派遣他

## ■企業集団の主要な拠点

当 社	本社：東京都港区新橋六丁目19番15号
	支店：北海道（札幌市）、神奈川（横浜市）、名古屋（名古屋市）、大阪（大阪市）、京都（京都市）、神戸（神戸市）、高松（高松市）、九州（福岡市）
都築電産株式会社	本社：東京都港区西新橋二丁目5番3号
都築テクノサービス株式会社	本社：東京都港区東新橋二丁目12番11号

## ■グループネットワーク



## 全国ネットワーク

- 都築電気事業所
- グループ・サポート拠点

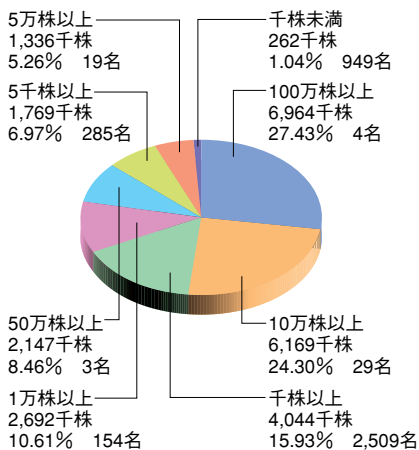
# 株式の状況および会社の概要

## ■株式の状況

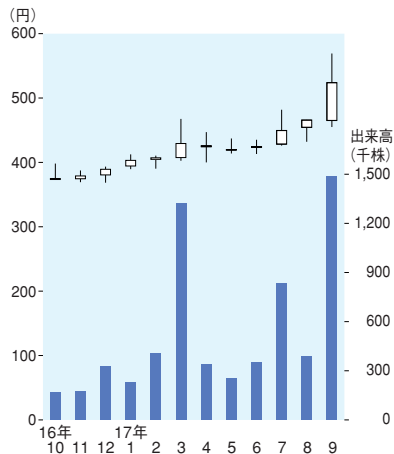
- 会社が発行する株式の総数 98,920,000株
- 発行済株式の総数 25,387,802株
- 株主数 3,952名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
富士通株式会社	2,402	9.46
都築興産株式会社	1,974	7.78
有限会社都築商産	1,349	5.32
株式会社東京三菱銀行	1,237	4.88
都築電気従業員持株会	871	3.43
株式会社三井住友銀行	751	2.96
株式会社みずほ銀行	525	2.07
ザチエースマンハッタン バンクエヌエイロンドン	446	1.76
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口	426	1.68
株式会社丸久	352	1.39
バンクオブニューヨークジーシーエム クライアントアカウンツイーアイエスジー	352	1.39

## ■所有株式数別状況



## ■株価および売買高の推移



## ■会社概要

- 商 号 都築電気株式会社 (TSUZUKI DENKI CO., LTD.)
- 本 社 〒105-8665  
東京都港区新橋六丁目19番15号 (東京美術倶楽部ビル)  
<http://www.tsuzuki.co.jp/>
- 創 立 昭和7年5月1日
- 資 本 金 9,812,930,540円
- 従業員数 1,207名 (連結2,348名)

## ■取締役および監査役

代表取締役社長	都 築 東 吾	取 締 役	上 田 英 雄
専 務 取 締 役	平 岡 文 人	取 締 役	浅 見 一 夫
専 務 取 締 役	南 舘 丞	取 締 役	水 島 俊 久
常 務 取 締 役	鳥 潟 守 一	取 締 役	三 浦 満
常 務 取 締 役	神 谷 讓 治	取 締 役	吉 井 一 典
常 務 取 締 役	安 藤 始	常 勤 監 査 役	内 田 佳 也
常 務 取 締 役	竹 内 喜 夫	常 勤 監 査 役	大 出 勝
取 締 役	間 塚 道 義	監 査 役	高 谷 卓
取 締 役	岩 本 美 博	監 査 役	辻 岡 健
取 締 役	広 林 謙 祐		

## 株主メモ

決 算 期 3月31日  
 定時株主総会 6月  
 基 準 日 3月31日  
 権 利 確 定 日 3月31日 (中間配当金は9月30日)  
 名義書換代理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 〒100-8212  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 証券代行部

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
 野村証券株式会社 全国本支店

同 連 絡 先 〒171-8508  
 (郵便物送付・電話照会) 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 証券代行部  
 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

なお、当社は決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページ (<http://www.tsuzuki.co.jp/>) に掲載しております。

(お知らせ) 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-864-490で24時間受付しております。



古紙/PLA配合率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆油  
インキを使用しています